

# 地域コミュニティに支えられた 学社融合施設

志木小学校（埼玉県志木市）

## 本事例のキーワード

複合化

地域と連携

対話型設計

柔軟な学習空間

防犯

小学校



## 事例のポイント

志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として学社融合の複合施設を新たに整備。

複合化で施設機能が高機能化・多機能化したことにより、小学校では学習環境の質が向上し、公民館・図書館でも学校と連携したより効果的な活用が図られるなど、相乗効果が生まれている。

## 事例概要

志木小学校は、明治7年に開校し約150年の歴史がある伝統校であり、昔から地域の人々に親しまれてきた。昭和29年に県内初の鉄筋コンクリート造の校舎として改築され、その後、児童数の増加に伴い増築を繰り返してきたが、老朽化が進捗しており、耐震化の必要性もあった。同じ頃、近くにあった公民館と図書館も老朽化対策の必要に迫られていた。

このような状況から、志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、学社融合施設とする案が浮上。平成11年に、学校関係者、保護者、地域の人たちから構成される、「志木小学校・公民館・図書館複合施設検討委員会」が設けられ、どんな施設を目指すのか2年半がかりで話し合いが行われた。

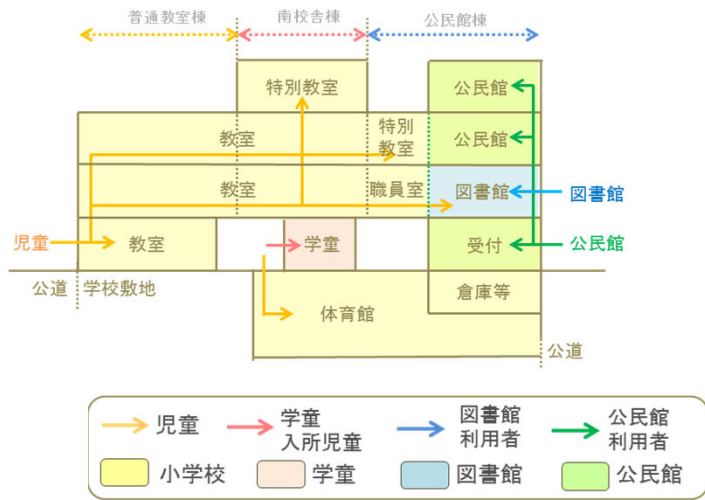
検討委員会において、施設の計画や管理・運営方法について関係者の意見を反映し、地域との合意形成を図りながら計画策定が進められた結果、平成15年に小学校、公民館、図書館が融合した複合施設が誕生した。

複合施設は普通教室棟と生涯学習棟の2つの棟からなり、普通教室棟には志木小学校が、生涯学習棟には、いろは遊学館（公民館）、いろは遊学図書館が入居している。両棟は広いピロティや渡り廊下でつながっており、行き来は自由。研修室やホール、体育館など子どもたちと市民が共有できる施設も多い。志木小学校は学社融合の学校として、関係機関と連携を図り、特色ある充実した教育活動を展開している。

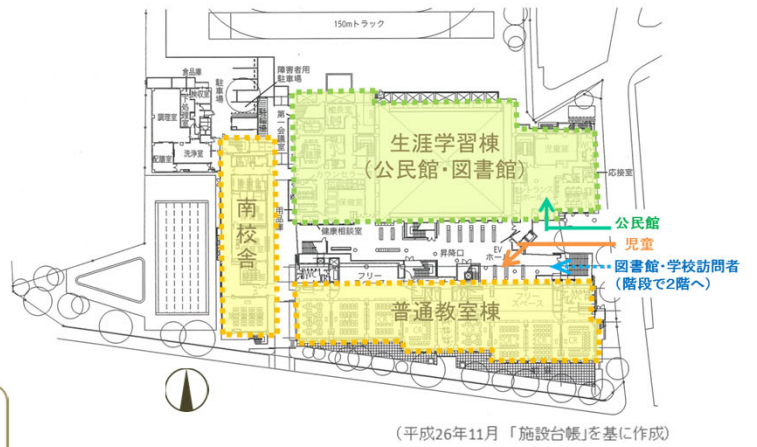


# 施設の配置・動線

< 立面図 >

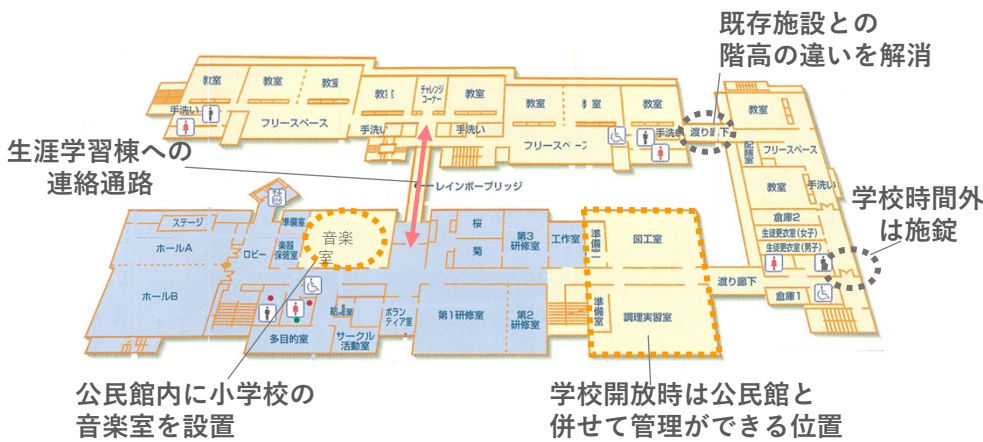


< 配置図 >



(平成26年11月「施設台帳」を基に作成)

## 平面計画上の特徴



3 F



2 F



1 F

## 事例ポイント 1

### 地方公共団体内の部局間の連携、地域との合意形成

志木小学校と公民館・図書館との複合化に当たり、施設の計画や管理・運営方法について検討するため、志木市内の複数の部局が連携した「庁内プロジェクトチーム」を設置するとともに、地域住民の意見を聴く場として「志木小学校・公民館・図書館複合施設検討委員会」を設けた。関係者間で必要な情報や意見の交換を行うなど、計画立案の過程を重視し、地域との合意形成を丁寧に図りながら整備が進められた。

#### ●庁内プロジェクトチーム

(平成 9 年 5 月から平成 13 年 3 月まで)

関係課：企画、財政、生涯学習、学校教育、公民館、図書館

検討内容：特に行政面からの問題点等を研究・検討

実施回数：15 回

#### ●志木小学校・公民館・図書館複合施設検討委員会

(平成 11 年 1 月から平成 13 年 3 月まで)

構成員：学校関係者、保護者、公募を含めた関係団体の市民

検討内容：先進事例の研究・視察や基本構想策定、

基本設計より実施設計まで具体的な施設計画 を検討

全体会：複合施設を総合的に検討（全 12 回）

分科会：それぞれの立場から複合施設の在り方を検討するため、下記分科会を設置（全 10 回）

- ・ 教育部会・・・学校側から見た複合施設の在り方の検討
- ・ 複合部会・・・生涯学習施設側から見た複合施設の検討
- ・ 管理運営部会・・・施設の管理運営について検討



## 事例ポイント2

### 地域の方々とのふれあいが身近にある複合施設

真の地域融合を目指して、日常的に地域との接点を持てるよう、普通教室棟と生涯学習棟が中庭（レインボーガーデン）を挟んで向かい合って整備されており、中庭が両施設の交流空間となっている。また、日常的に中庭を挟んで互いの活動を目にできる空間ともなっている。

複合化により、単独の学校として整備するよりも施設機能が高機能化・多機能化し、小学校においては、学習環境の質の向上が実現されるとともに、複合化した公民館・図書館のそれぞれの特性を活かした多角的な教育活動の実施が可能となっている。公民館・図書館においても多世代を対象とした講座の開催や、学校と連携した事業の展開等により効果的な活用が図られている。

例えば、休憩時間を利用して子どもたちが市立図書館で本の貸出し業務を手伝ったり、公民館の利用団体が小学校の部活動の指導をボランティアで行ったりしている。図書館の「おはなしのへや」で行われる学校図書員による「読み聞かせ教育」では、作中のメニューと給食献立をリンクさせることで、子どもたちに実体験を伴った読書活動の機会を提供している。

その他にも、公民館、図書館との連携授業として「命を学ぶ人権講座」を実施し、動物写真家や車椅子ダンサーのお話を聞いたり、パフォーマンスを見たりするなど、小学校だけではできないような経験を子どもたちにさせることが可能となっている。大人とのやりとりの中で、子どもたちは自然に大人との接し方や言葉使いを学び、社会性を身に付けていく。

公民館のイベント「ふれあい祭り」には小学校も参加しており、地域との交流を深化し、教育活動への理解促進を図る機会となっている。

このように、地域の方々とのふれあいが身近にあるということが本施設の大きな特色となっている。



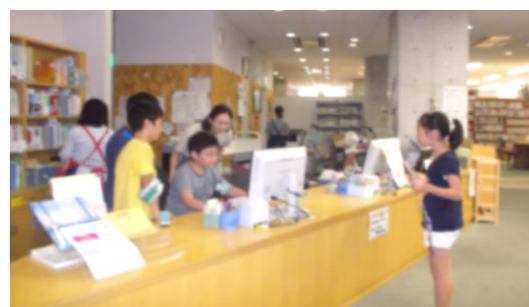
交流空間となっている学校施設と公民館の中庭（レインボーガーデン）



学校図書員による読み聞かせ教育  
給食献立には作中メニューとリンクした「ぐりとぐら」のカステラ



子どもたちも参加して実施された  
公民館のイベント「ふれあい祭り」



図書館での子どもたちによる図書の貸し出し

### 事例ポイント 3

## 全面ガラス張り、壁がないオープンな空間による開かれた学校

普通教室棟と生涯学習棟は両棟とも中庭に向かって全面ガラス張りとなっている。また教室と廊下の間には壁がないため、非常に見通しの良い施設であり、通りすがりの市民も気軽に授業の様子を見ることができるよう計画されている。

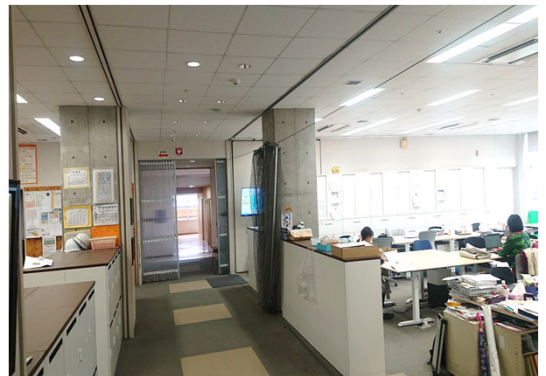
職員室にも壁はなく、高さ約1mの棚が廊下と職員室を仕切っている。場所はあえて教室棟ではなく、生涯学習棟の最も人の出入りの多い場所に計画されている。以前の職員室は、人を寄せ付けない雰囲気があったが、新校舎では子どもたちのみならず、保護者も何かのついでに立ち寄りやすく、教師と子どもたち・地域住民との接点ができやすくなっている。

各教室には隣接してオープンスペースが設けられており、多様な学習形態に対応した柔軟な運営ができるようにフレキシブルな学習空間として計画されている。

また、各階にチャレンジコーナーと名付けられた小さな図書コーナーが設けられており、図書館に行かなくても本が読めたり、授業の合間に調べものをしたい時に利用ができる等、学習意欲が高まるような工夫も凝らされている。



壁のない教室とオープンスペース



気軽に立ち寄ることができる壁のない職員室

### 事例ポイント 4

## ハードとソフトを組み合わせた柔軟な防犯対策

もともと地域で子どもたちを守ろうという意識が強い地域であったこと、教職員だけでなく複数の施設の職員と一緒に子どもたちを見守ることができること、ガラス張りの壁等、見通しのよい施設であり、目が届きやすいこと等から、学校関係者と公民館・図書館利用者との動線はあえて明確に分けず、大人の目で子どもたちを守るという方針で運営されている。

防犯監視カメラの設置や危機管理マニュアルの作成、常駐警備員の配置、3施設合同の避難訓練・防犯訓練の実施（年に3回）、教職員および図書館・公民館の職員は緊急時に備えて全員PHSを携帯する等、ハードとソフトを組み合わせた柔軟な防犯対策をとることが、結果として子どもたちの活動範囲を広げることになっている。また、日常的に地域の人々が気軽に出入りし子どもたちと互いに顔見知りになっていることも防犯対策につながっている。



小学校のテラスと図書館の入口が近接する2階には警備員が常駐



3施設合同で実施する避難訓練の様子

## 学校概要

志木小学校  
埼玉県志木市

全体工期：平成13年6月～平成15年3月

学校規模：30（4）学級、836人 ※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。

敷地面積：12,072㎡

保有面積：小学校 10,489㎡ / 公民館 1,704㎡ / 図書館 1,034㎡

構造：SRC造地下2階地上4階

※令和5年4月時点